

研究を知る × 人を知る

NIED Interview

防災科研で働く研究者をご紹介します。
研究のことから趣味にいたるまでお聞きしました。



— 防災科研を選んだきっかけは？

日本とアメリカの両国出身で、カリフォルニア大学サンタバーバラ校で地震学を学びました。学生の時、防災科研のデータを使って研究していたので、日本の研究所で挑戦したいと思い、公募に応募しました。アメリカの大学では、指導教官だけでなく、論文審査会（Thesis committee）の先生たちも防災科研を勧めてくれたのも大きかったです。

防災科研はアメリカの地震学研究から見ると、結構すごい研究所なんです。アメリカ地質調査所（USGS：United States Geological Survey）ぐらい良く知られていますし、データが使いやすいし、質が良いと言われています。アメリカでもカルフォルニアは地震が多いので、研究も盛んです。

専門家や関係者以外での地震学（Seismology）という学問の捉え方は、一般的に日米で少し違う印象です。日本では地震学は主に地震（断層運動に

より地面が揺れる現象）を専門とする学問と捉えられていますが、アメリカでのSeismologyは断層運動に限らず地面が揺れる現象全般をターゲットにしている分野だと捉えられている印象です。例えば、地球自由振動といって地球全体が揺れることも比較的活発に研究が行われています。海洋波浪などが深く関わっていると言われていますがまだ分かっていないこともあります。防災科研では日本で一般的な意味での「地震学」の研究活動が活発で、またコミュニティに対して研究を推進している機関です。アメリカでの環境とは違った事に挑戦してみたいと思いました。

— 防災科研で研究していることを教えてください。

私の専門は、地球物理学です。防災科研では微小地震の震源の位置を正確に特定するという研究をしています。地震学では、この震源の位置を特定す

ることがすべての研究の始まりと言えます。本当に地道で、基本的なことですが、非常に重要なことなんです。巨大地震はたまにしかおきませんし、その断層ではじめて記録された地震が巨大地震だったという場合もあります。でも、微小地震（小規模な破壊）が起きているという事は、少なくとも破壊できる物質や状態である事。巨大地震も起こる可能性はある。だから、微小地震の研究を進めることで、巨大地震に備えることができるんです。

— 今後どんな研究をしたいですか？

地震が発生する断層下端の物質や圧力などの状態がどうなっているのが興味があります。残念ながら、現代の技術ではそこまでの深さを掘ることができないので、他分野も含め様々な知見や観測データから間接的に求めたものです。実際に現状が見られたら面白いんですけど、手に届きそうで届かないからこそ、虜になるテーマだと思います。



エリザベス
さんって
こんな人

地震津波火山ネットワークセンター 特別研究員

ヤノ トモコ エリザベス

アメリカで仕事をしながら最終的に Doctor of Philosophy in Geological Science 博士課程修了。専門は地球物理学・地震学。2013年4月より現職。

趣味はサルサダンス。他にもスキーなどアウトドア派の一面も。最近では子ども達とこっそりサルサダンスをしています。